

「Merry」とは、幸せ・楽しさ・陽気さといった意味の言葉

「Merry Bowwow」って何ですか？

先月号の「Le chien」で紹介していた「Merry Bowwow Project」。「何だか気になったけど、今ひとつよくわからない」と思った読者の方も多かったのではないのでしょうか。実はまだ、企画段階の話。でも、何か愛犬と一緒に楽しく、また世の中のためになることを目指すプロジェクトなのです。その中心人物が思い描いていることをズバリ、聞いてみました。



www.21merry.net

☆水谷さんが「Merry Project」を始めたきっかけは？

水谷「米国を旅行した際に、偶然出会った少女たちの笑顔に魅せられて、写真を撮ったことがきっかけで始まりました。そして「あなたにとってMerry（しあわせ）とは何ですか？」と原宿を歩く少女たちに質問し、その笑顔の写真とメッセージを集めて、アートとして発信することを思いついたんです。「はい、にっこり～」と言いながら、2台のカメラで写真を撮り続けているんですが、1台目では硬かった表情が、別のカメラに持ち替えると自然な笑顔になるという法則があるんです。この4年間にほぼ1万人の世界中の笑顔フィルムに収めました」

☆「Merry Project」がメディアに注目されたのは、震災後の神戸で行った展覧会でした。

水谷「負の遺産を背負った場所で悲しみや不安から立ち直る元気と笑顔を発見する活動として展開してきたのが「Merry Project」で

す。震災後の神戸、テロ1年後のNY、03年は、長い不況にあえぐ東京で展開しました。「Merry in TOKYO」に併せて、ゴミ拾いプロジェクトをスタートさせました。自分たちの足もとにある“環境”。その問題の解決に取り組むこと。その姿が、街の人々にMerryな笑顔を生み出し、元気な笑顔があふれる街に変えていく。さまざまなコミュニティ活動が気づかせてくれたことは、その活動が生む「純粋（ピュア）な笑顔のエネルギー」の強さでした」

☆そして新たなプロジェクトとして「Merry Bowwow」を企画されたのは？

水谷「Merry Bowwowは、参加する人々のひとつひとつの笑顔が集まり大きな笑顔となり、街自体を活性化させる一般参加型のアートイベントです。人と犬との関わり合い、そこには、コミュニケーションが生まれ、潤いが生まれ、Merryなコミュニティが生まれます。犬と暮らせるMerryな街づくり。人と犬との共生をテーマとし

た街づくりを目指しています。ペット社会におけるルールの理解・モラル形成を広めることで、犬を飼う飼わないを問わず、多くの人々が犬とともに暮らす豊かな生活を享受できるようなチャンスを創り出すコミュニティ活動を考えています。そんなコミュニティで発見したピュアな笑顔がコミュニケーションアートとなります」

☆具体的にはどんなアクションを起こすつもりですか？ ゴミ拾いプロジェクトではMerryのロゴマークが入ったおそろいのTシャツを着て、オリジナルデザインのゴミ袋を持ってゴミ拾いする光景は、人々の目を引くアートになっていると思いますが、

水谷「犬との共生をテーマとした街づくりのためのマナー・ルール啓蒙プログラムを実施します。そして、このプロジェクトもMerry Bowwowのロゴマークがコミュニケーションすることで成り立っていく。「マークを持つ人＝マナーを守る、ルールを守る、実行できる人」として、犬と散歩している姿

を多くの人に見てもらおうこと。犬と暮らすマナー、ルールを守る街の空気、すなわちMerryな街を作っていきたい。そういう街では人もペットもMerryです。ストレスを解消でき、メンタル面にも効果は絶大。そういうMerryのコミュニケーションを広めていきたいと考えています」



Merry Project 代表
水谷孝次さん Koji Mizutani

【Profile】
アートディレクター・グラフィックデザイナー
桑沢デザイン研究所卒業後、日本デザインセンターを経て独立。アートディレクターとして数多くのグラフィックを制作し、国内外での受賞多数。

【Merry Projectの軌跡】
02年3月： Merry in KOBE（震災後の神戸での復興記念事業の展覧会）
02年5月： ヴィジュアルブック「Merry in KOBE」の出版
03年2月： Merry in NY（テロ後1年が経過したNYでの展覧会）
03年7月： Merry in TOKYO（六本木ヒルズをメイン会場に日比谷、丸の内、汐留など東京の街を結んだ展覧会）

あそびの犬すき

笑顔が街を変えていく！
Merry Bowwow Project